

まえがき

本研究資料は、令和3年度～5年度のプロジェクト研究『地域農業・農村社会の構造変化を踏まえた農業経営の改善・農村コミュニティの維持・活性化に関する研究』の中で実施した、2020年農業センサスの分析結果を取りまとめたものである。

当研究所では、これまでも農業センサス結果の公表と同時に総合的な分析に取り組んできたが、今回の2020年農業センサスは、「食料・農業・農村基本法」（新基本法）が制定されてから20年の節目となる我が国農業・農村構造を捉えたものであり、その分析結果は今まで以上に注目されている。戦後、地域農業の中心的な担い手であった「昭和一ケタ世代」が完全にリタイアし、その後を継いだ「団塊世代」の高齢化が進む中で、経営継承を断念して離農する農家が急増している。これまでになく多くの農地が流動化することによって、農業・農村の構造が大きく変動しており、その実態と展開過程を明らかにすることが求められている。そしてこのことは、今後の我が国の農業・農村を展望していく上でも重要な意味を持つ。

このため当研究所では、今回も農業・農村領域に在籍する研究員を中心に12名でセンサス分析チームを編成し、激動する農業・農村構造の態様を幅広い視点から総合的に捉え、行政及び研究の両面に問題提起することを目的に、2020年農業センサスの分析作業を進めてきた。今回の分析では、経営体の区分変更が行われたこともあり、個票データを積極的に活用し、農業・農村の基礎構造の展開過程を捉えるとともに、前回初めて実施した女性農業者や農業生産関連事業に関する分析を引き続き行ったほか、集約型農業部門（園芸作及び肉用牛経営）の分析や有機農業、都市農業といった、新しい分野の分析にもチャレンジしている。

しかし、それでもすべての農業・農村構造問題をカバーするには至っていない。また、各章で取り上げたそれぞれの課題に対する分析も、個票の組替集計を行うなどして精力的に取り組んだものの、必ずしも十分な分析がしつくされているわけではなく、残された課題も多い。関係諸賢の忌憚のないご批判とご教示をお願いしたい。

令和5年12月

農林水産政策研究所
農業・農村構造プロジェクト
センサス分析チーム